

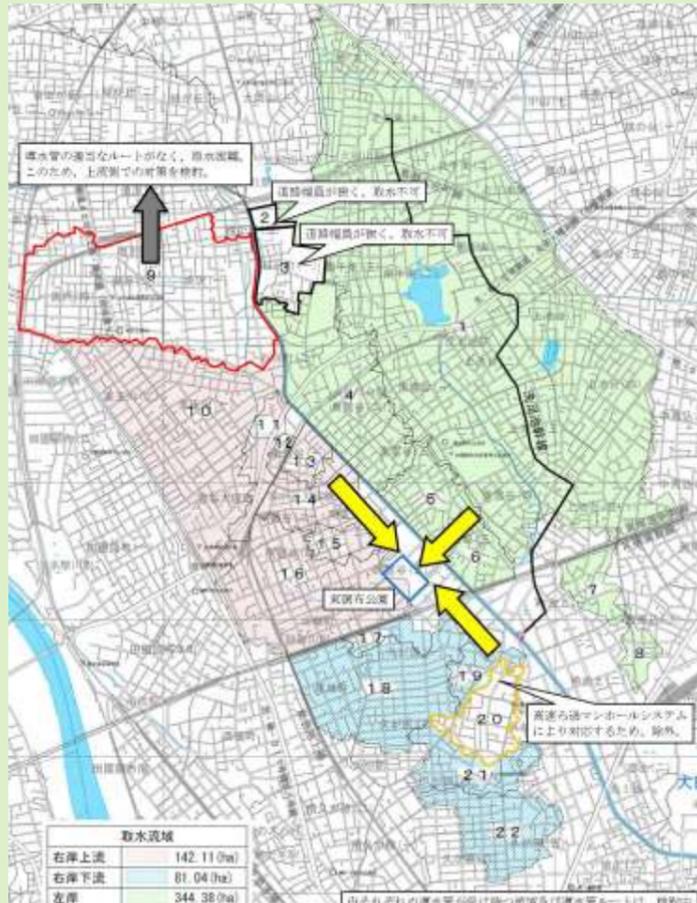
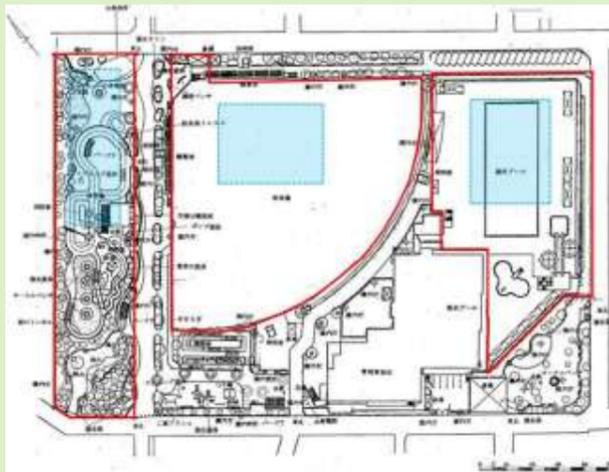
平成26年度の取り組みのまとめ

貯留施設による合流改善

呑川幹線中流域及び洗足池幹線流域に対しては、東調布公園を候補として検討を進めるものとした。

導水管は現時点では、呑川幹線中流域及び洗足池幹線流域を3つに分割し、それぞれから東調布公園まで施工する案とした。

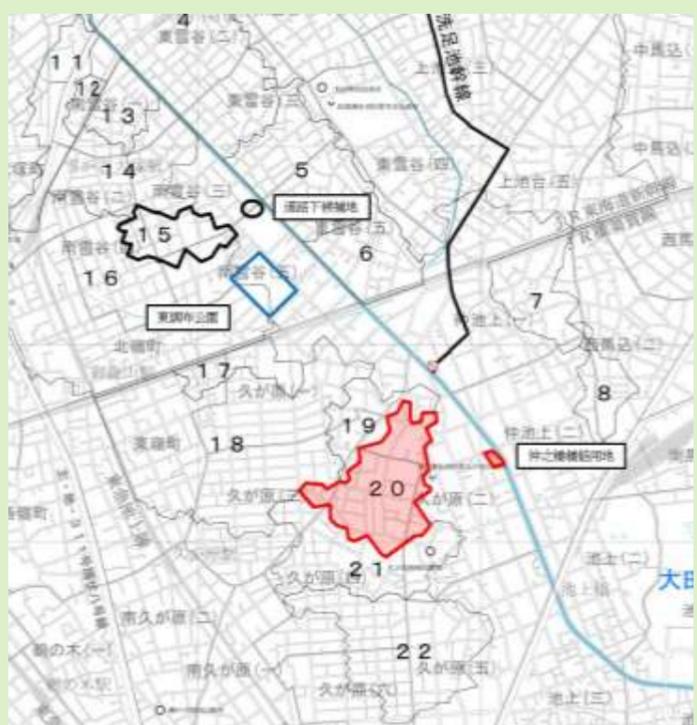
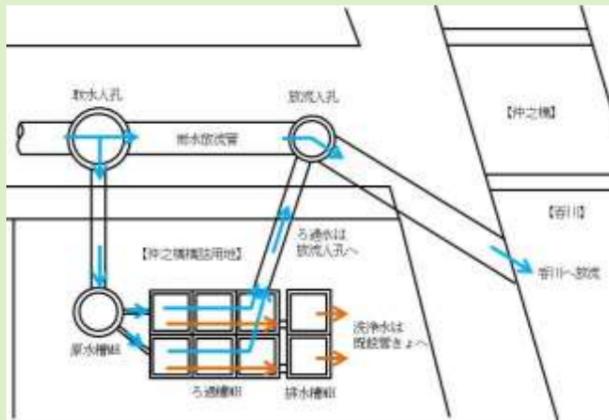
貯留施設の配置箇所は、3箇所（交通公園、野球場、屋外プール）を基本に検討し、関係各所と協議の上、今後、決定していく。



高速ろ過マンホールシステムによる合流改善

高速ろ過マンホールシステムの整備場所は、道路下への設置と仲之橋橋詰用地への設置とを比較した結果、仲之橋橋詰用地とした。

早期の事業着手に向け、施工方法や取水、放水方法等の詳細検討を行い、実施スケジュールを定めていく。



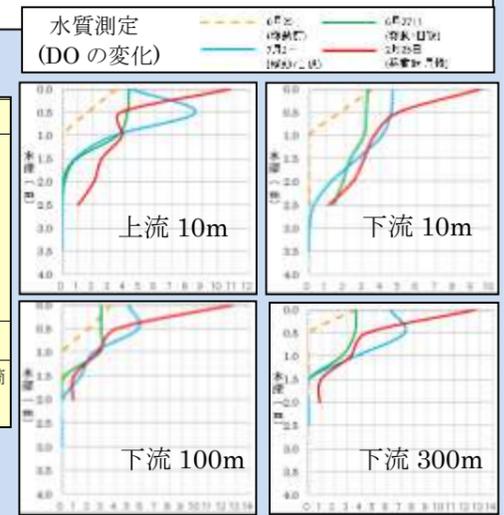
高濃度酸素水による浄化

平成27年度の基本設計・詳細設計に向けて、浄化施設の条件整理や整備手法・運営方法の検討、整備スケジュールの検討を行った。また、平成27年度早期に委託を発注するため、委託内容を確定した。

スカム発生抑制装置

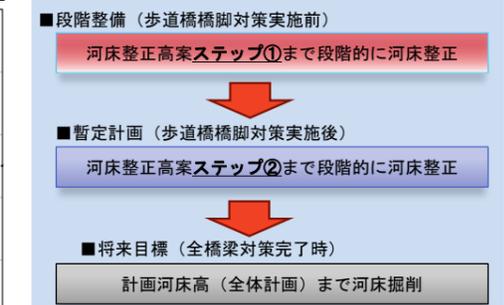
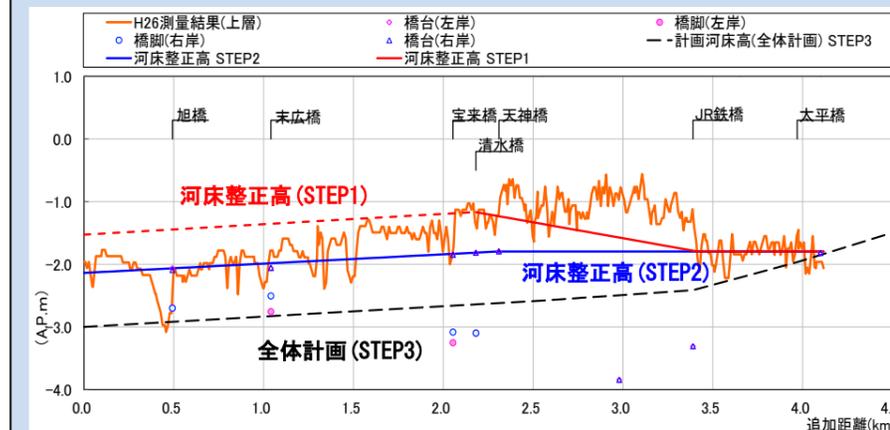
既設スカム発生抑制装置2基のうち、老朽化の著しい1基について、機能強化を含めた更新を行い、平成26年6月より稼働させている。また、効果検証のため、定期的に水質測定を実施している。平成27年度も引き続き、効果検証を実施していく。

	旧・水質浄化装置	新型スカム発生抑制装置	備考
動水量	23,000m ³ /日	65,000m ³ /日	・動水量を約2.5倍に増大
整流筒	水深70cmに設置	水深0~150cmに設置	・河川水の攪拌効果を増大させるため、整流筒設置位置をより深く設定
吐出角度	0° (水平)	-5~15°	



河床整正計画

既設橋梁の諸元を考慮し、暫定計画河床を設定した。また、河床に堆積している汚濁物質を効率的に取り除くことができる施工方法の選定を行った。



	バックホウ浚渫	従来式浚渫 (ポンプ式)	高濃度式浚渫 (ポンプ式)
工法概要	バックホウにより水底の土砂を掘削・積込する工法	水底土砂を掘削しながら、ポンプにより水と共に吸引する工法	堆積土を負圧吸引により、土砂と一緒に高濃度で吸引する工法
浚渫土量	10,200 m ³ (含泥率70%)	56,800 m ³ (含泥率12.5%)	14,200 m ³ (含泥率平均50%)
適用土質	軟質土から軟質岩盤まで適用するが、流動性がある軟弱なシルトや粘土は適用しない	砂質シルト、シルト、粘性土、浮泥、礫 (粒径30mm~40mm以下) まで適用	砂質シルト、シルト、粘性土、浮泥、礫 (粒径30mm~40mm以下) まで適用
水質改善効果	水質悪化の要因となる浮泥等の除去が困難	局所的な窪地を改善でき、貧酸素化を抑制可能。汚濁物質を直接的に除去できる	局所的な窪地を改善でき、貧酸素化を抑制可能。汚濁物質を直接的に除去できる
施工実績	呑川河床整正工事 (H22, H23)	都市域の中小河川での事例は④	都市域の中小河川での事例は⑧
総合評価	△	×	○